22徒然草（兼好法師）

　にいみじきのありけるを、［　Ａ　］誘ひでて遊ばむとたくむ法師ありて、能ある遊び法師など語らひて、風流のねんごろに営み出でて、箱やうの物にしたため入れて、の岡の①よき所にみ置きて、紅葉散らしかけ、思ひよらぬさまにして、御所へまゐりて、児をそそのかし出でにけり。うれしと思ひて、ここかしこ遊びめぐりて、ありつるのにみゐて、いたうこそこうじにたれ。あはれ紅葉をかむ人もがな。あらむ僧たち、祈りこころみられよなど言ひしろひて、埋みつる木のもとに向きて、押しり、ことごとしく結び出でなどして、いらなくふるまひて、木の葉をかきのけたれど、つやつや物も見えず。所のひたるにやとて、掘らぬ所もなく山をあされども無かりけり。埋みけるを人の見おきて、御所へまゐりたる間に盗めるなりけり。法師ども、言の葉なくて、いと聞きにくくいさかひ腹立ちて帰りにけり。②あまりに興あらむとすることは、必ずあいなきものなり。　 （第五四段）

＊語注

＊御室…のこと。京都市右京区にある寺院。

＊破子…食物を入れる器。

問１　文中から会話部分を一か所探し、最初と最後の三字ずつを答えよ。

〔　　　　 　〕〜〔　　　　　 　〕

問２　［　］Ａに入る最も適当な副詞を次から選び、記号を○で囲め。

ア　かく　　イ　いかばかり　　ウ　いかで　　エ　あへて　　オ　など

問３　⑴―線部①の意味として最も適当なものを次から選び、記号を○で囲

め。

　ア　都合のよい場所　　イ　近い場所　　ウ　きれいな場所

　エ　選び抜いた場所　　オ　風流な場所

　⑵具体的に示した部分を文中から二か所探し、三字と四字で抜き出して答え

よ。

　▽＝〔　　　　　　〕　▽＝〔　　　 　　　〕

問４　―線部②の解釈として最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　興味本位に児を誘い出すと、決まって恥をかくことになるものだ。

イ　面白い趣向を追い求める遊び人は、決まって天罰を受けるものである。

ウ　むやみに趣向をこらそうとすると、必ずつまらない結果になるものである。

エ　面白がって宝探しをしていると、必ず仲間割れをして言い争うことになるものだ。

オ　興をそえようとして策を弄すると、必ず隙をつかれて損をすることになるものである。

【解答】

問１　いたう〜られよ

問２　ウ

問３　⑴ア　⑵▽＝苔の筵　▽＝木のもと

問４　ウ

現代語訳　仁和寺に、かわいらしい稚児がいたのを、なんとかして誘い出して遊びたいものだとたくらむ僧たちがいて、芸の達者な歌舞音曲に巧みな僧たちなどを仲間に引き入れて、気の利いた破子のようなものを、丹念にこしらえて、箱のようなものの中に整えて入れて、双の岡の都合のよい場所に埋めておいて、（その上に）紅葉を散らしかけたりなど、（誰も）気づかないようにして、仁和寺へ参って、稚児を誘い出したのであった。（僧たちは、うまくいったと）うれしく思って、あちこち遊びまわった後、さっきの苔が一面に生えている所に並んで腰を下ろして、「ひどくくたびれてしまった。」「ああ、紅葉を焚いて（酒を温めて）くれる人がいたらなあ。」「効験あらたかなお坊さん方、ためしにお祈りなされよ。」などと互いに言い合って、埋めておいた木の下に向かって、数珠をおしもみ、印形を大げさに結んだりなどして、わざとらしく振る舞って、木の葉をかきのけたが、いっこうに何も見えない。場所が違ったのだろうかと思って、掘らない所もないくらいに山じゅうを探すけれども（どこにも）なかった。埋めたところを人が見ていて、（僧たちが）仁和寺へ参っている間に盗んだのであった。僧たちは、ことばもなくて、口汚く言い争って腹を立てて帰ってしまった。むやみに趣向をこらそうとすると、必ずつまらない結果になるものである。

ポイント

問２　「いかで」＝何とかして。希望の意を込める。

問４　「あいなき」＝よくない・つまらない。